

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2024年11月)

2024年11月5日

調査部 副主任研究員

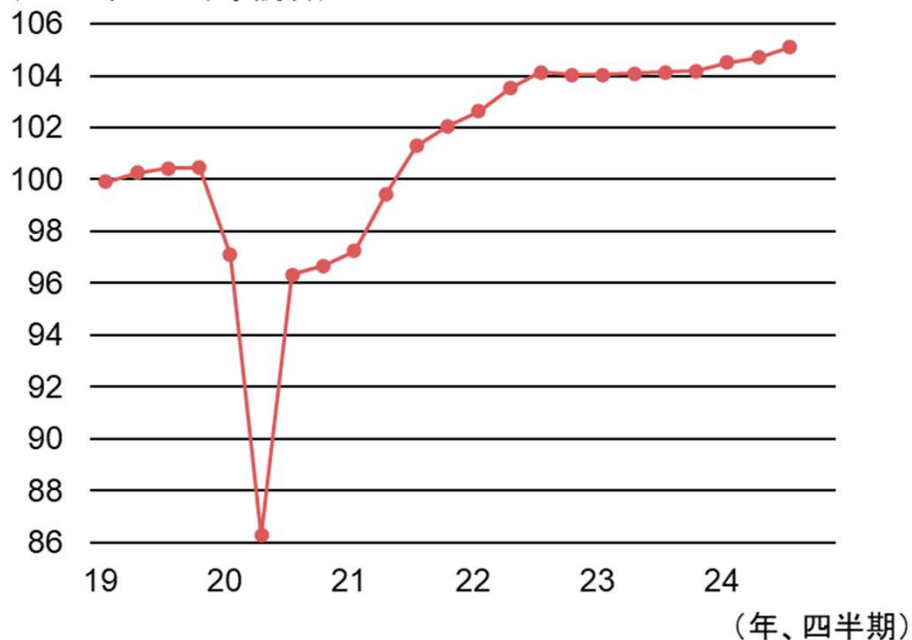
土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

ユーロ圏の7-9月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.4%と、4-6月期(同+0.2%)から増勢が加速し、景気は拡大している。スペインが堅調を維持し、フランスもパリ五輪効果で増勢を強めた。またドイツが同+0.2%と再びプラス成長に転じたが、イタリアはゼロ成長に失速した。一方、最新10月の景況感指数は95.6と2カ月連続で低下している。

実質GDP

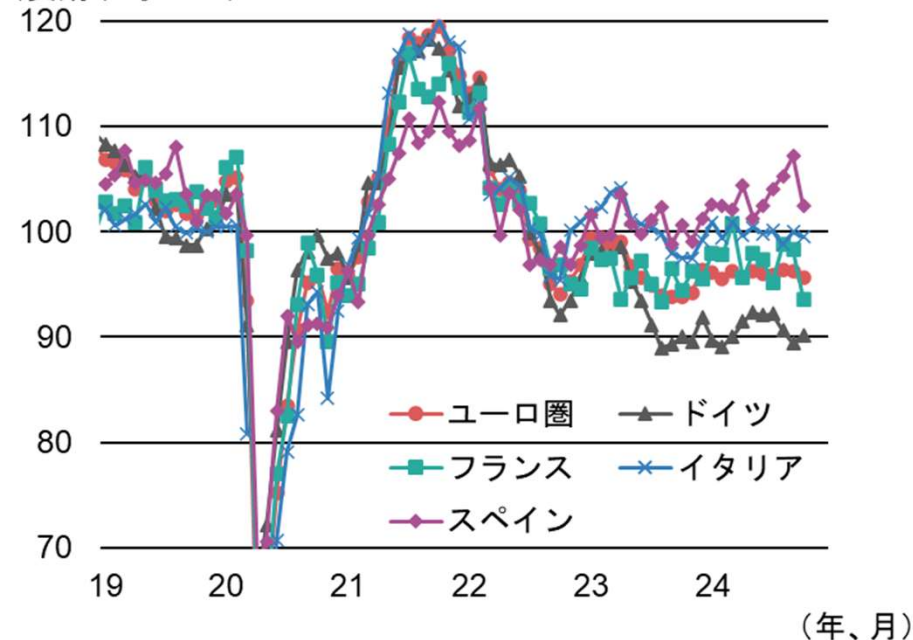
(2021年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

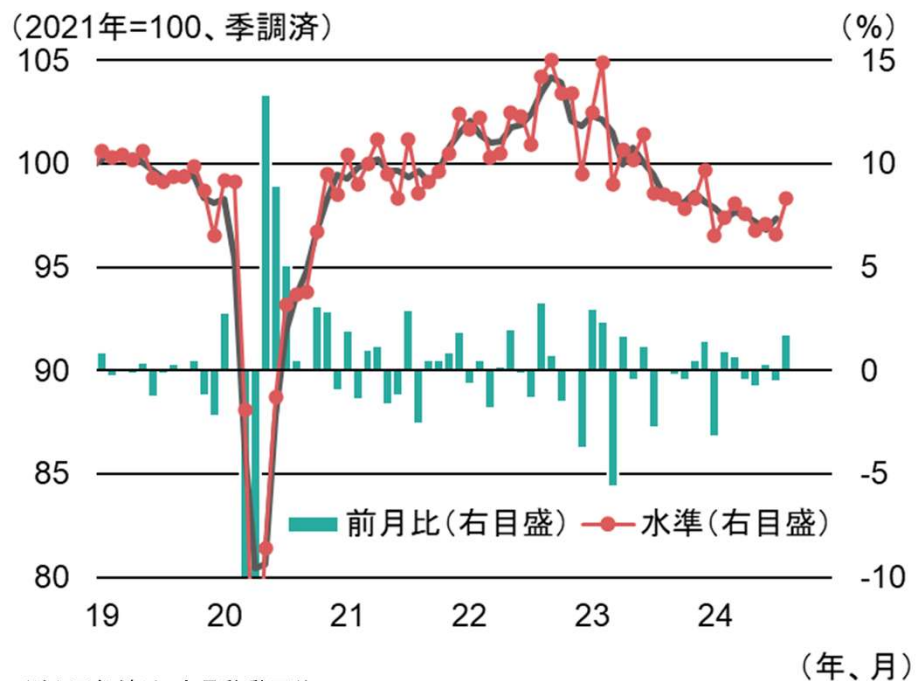


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は停滞している

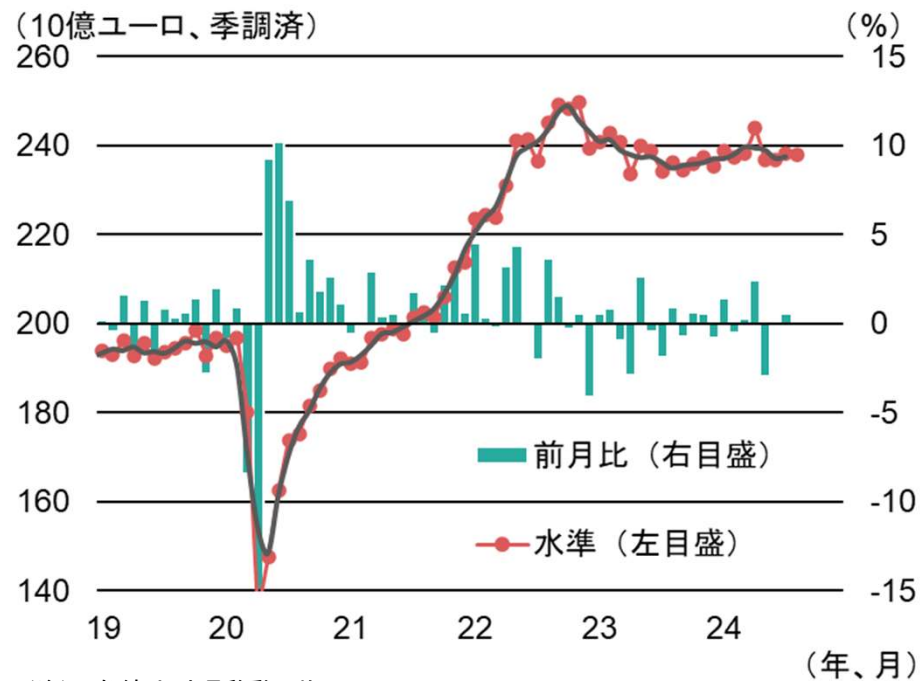
ユーロ圏の8月の鉱工業生産は前月比+1.8%と急増し、均した動きは底入れしたが、停滞している。一方、同月の名目輸出は前月比▲0.1%と再び減少したが、均した動きは横ばい。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

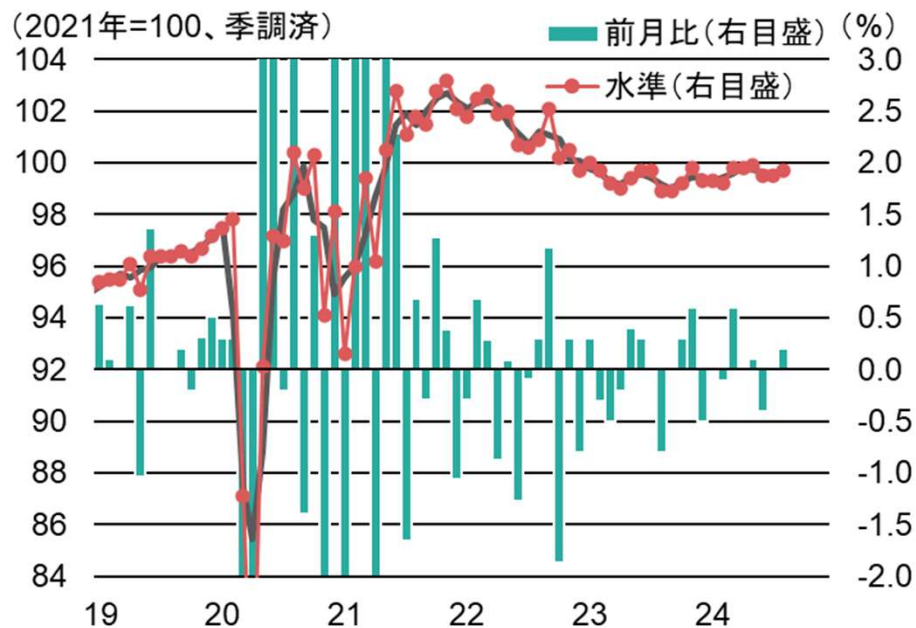


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は停滞している

ユーロ圏の8月の小売数量は前月比+0.2%と再び増加したが、均した動きは停滞している。一方で、9月の新車販売台数は前月比+8.2%の年率881万台となり、均した動きは下向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

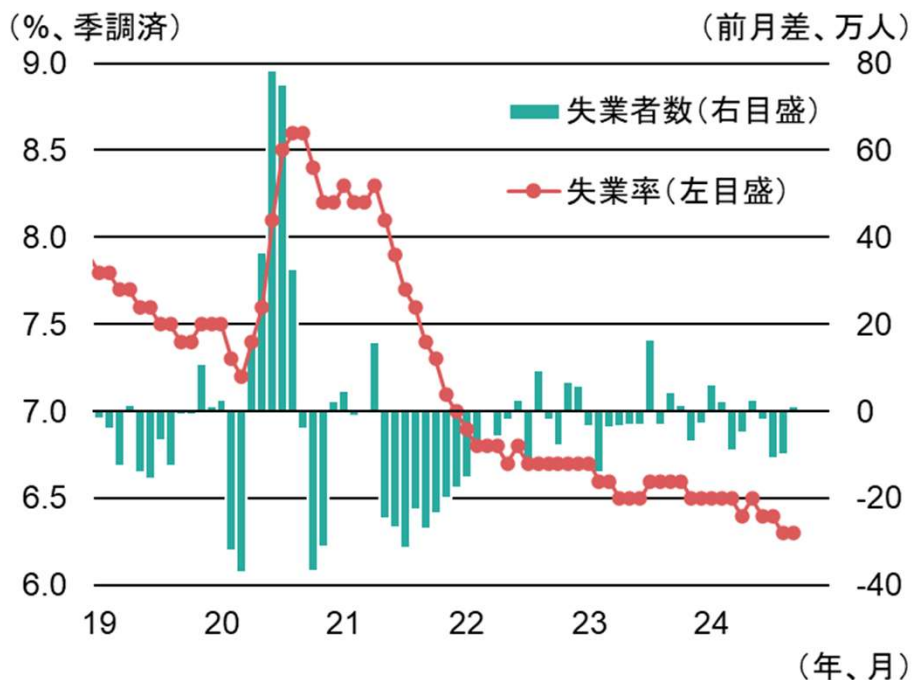


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が進む

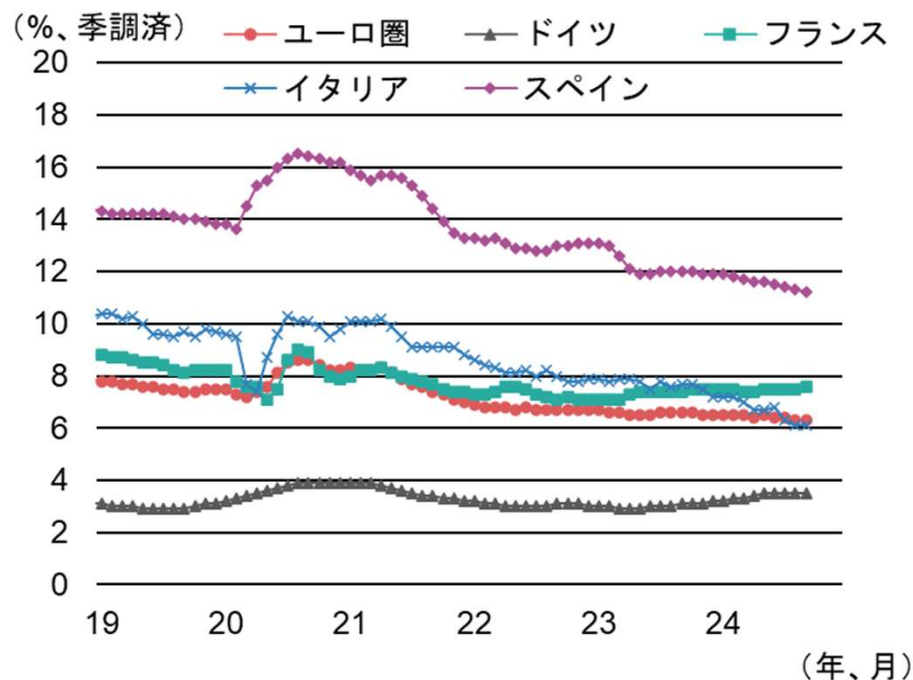
ユーロ圏の8月の失業率は6.3%と2カ月連続で同水準、同月の失業者数は前月差1.3万人増と5月以来の増加に転じたが、雇用は改善基調を維持していると判断。主要国別に失業率を見ると、ドイツやフランスが緩やかな上昇トレンドである一方で、イタリアやスペインは緩やかな低下トレンドである。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

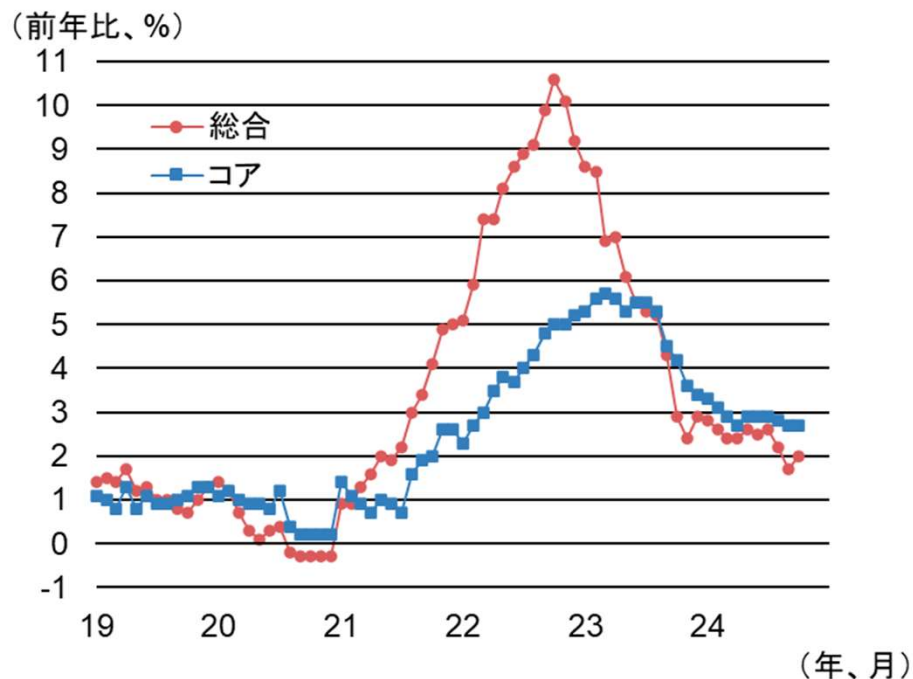


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは鈍化している

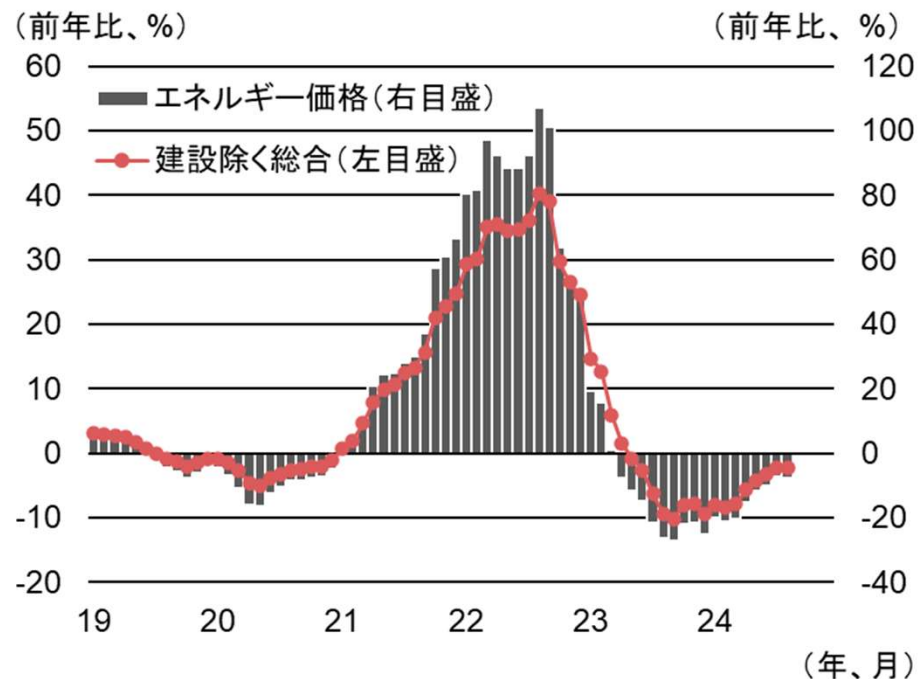
ユーロ圏の10月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.0%と、前月(同+1.8%)から反発した。一方、変動が激しい項目を除いたコアベースは同+2.7%と前月と同じ伸び率となったが、インフレは鈍化が続いていると判断。また生産者物価(建設除く総合)は8月時点で前年比▲2.3%と15カ月連続で前年割れとなったが、マイナス幅は徐々に縮小している。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

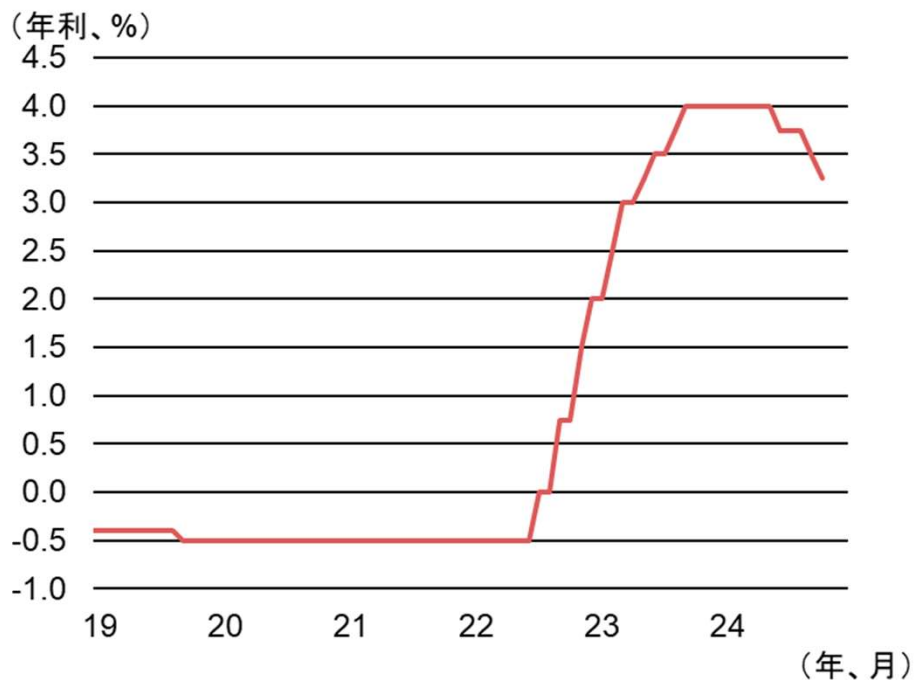


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは10月理事会で追加利下げを実施

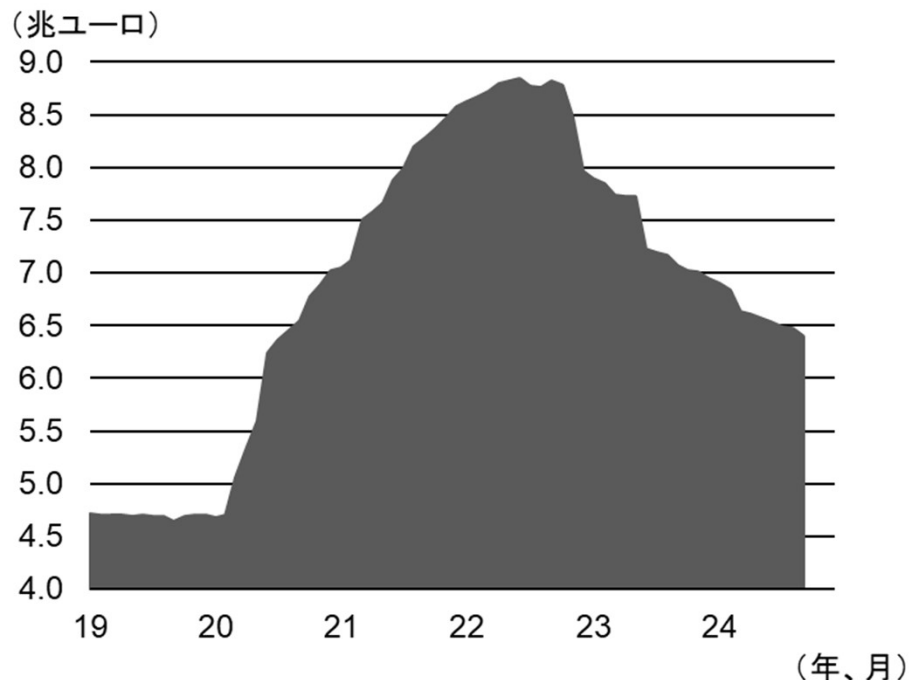
欧州中央銀行(ECB)は10月17日の理事会で、事実上の主要政策金利となっている預金ファシリティー金利を0.25%ポイント引き下げ、年3.25%とした。インフレが下振れしたことに對してECBは警戒感を強めていることから、12月12日に予定されている次回の理事会では0.5%の大幅利下げが行われるとの観測が強まっている。

政策金利(預金ファシリティー金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

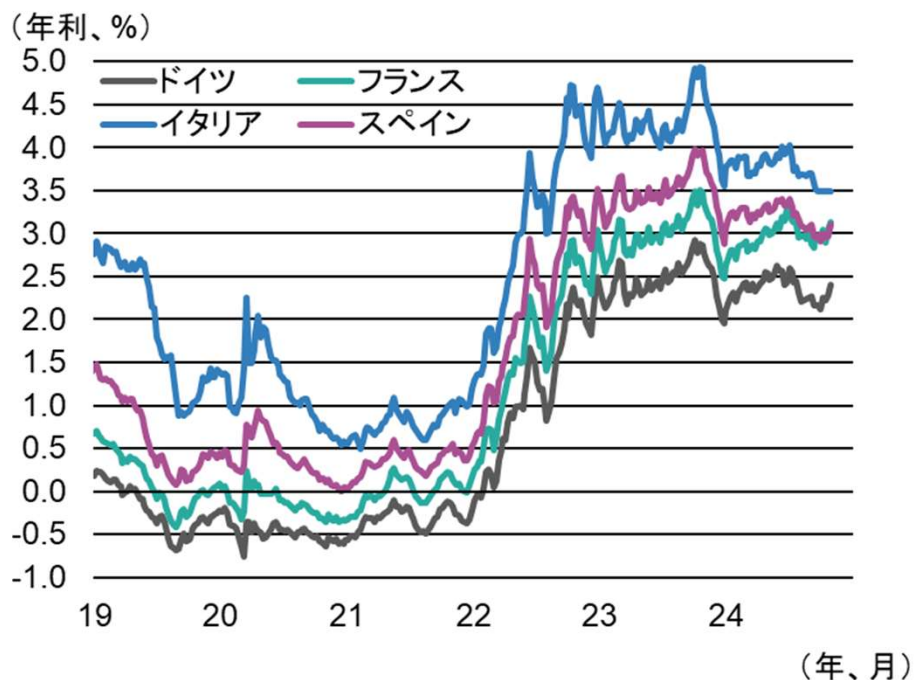


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

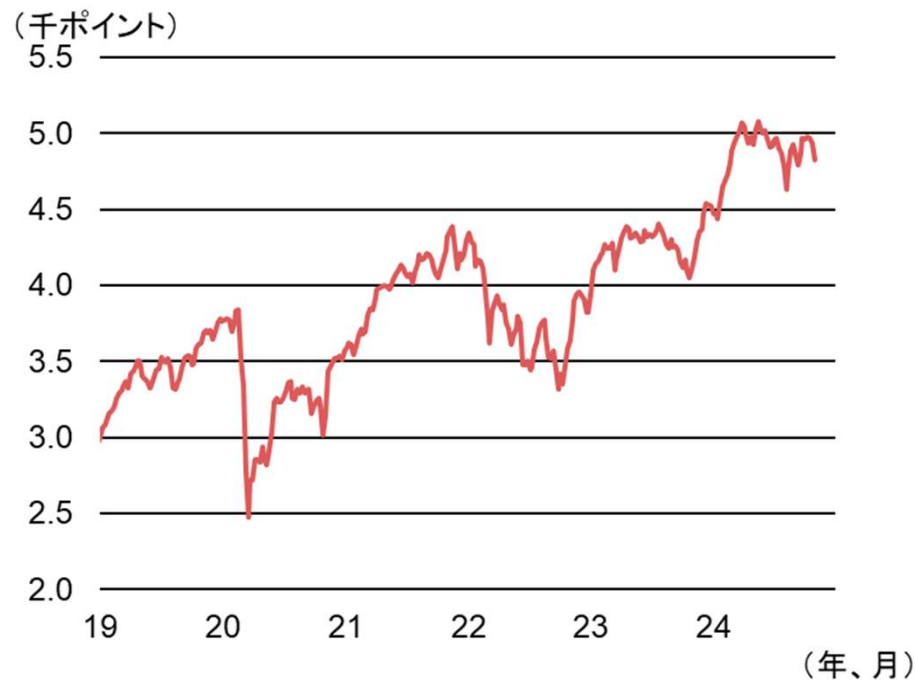
10月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇した。米国の金利上昇に連動した。一方で、同月の株価は下落した。企業業績の低迷が相場の重荷となった。

10年国債流通利回り



(出所)各国中銀

株価(Eurostoxx50)



(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で上昇

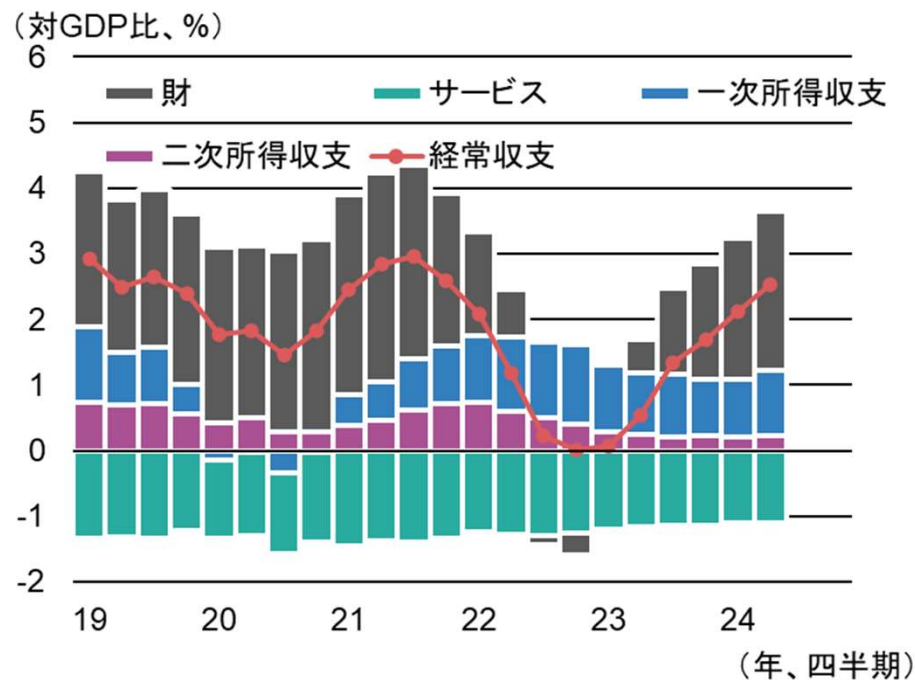
10月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国の追加利上げが緩やかになるとの観測からユーロ安ドル高が進んだ。一方で対円では、日銀による追加緩和観測の後退もあってユーロ高円安になった。経常収支は財収支(貿易)黒字が拡大しており、実需面からのユーロ買い圧力が徐々に強まっている。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支



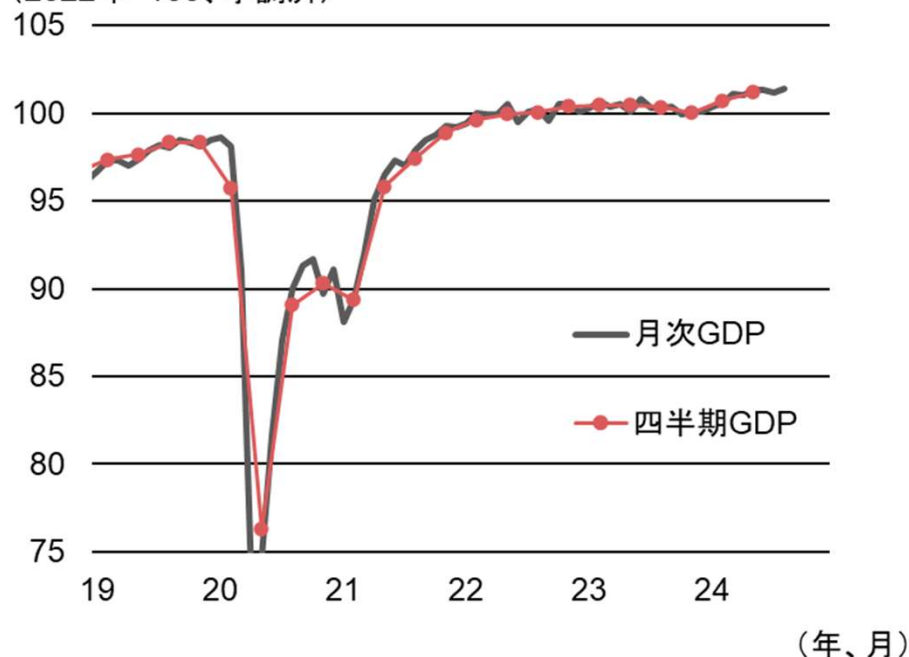
(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は拡大している

英国の4-6月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.5%と2期連続で成長したため、景気は拡大局面に転じた。主要な需要項目別には個人消費と総固定資本形成がプラスを維持した反面で、輸出のマイナスが続き、景気を下押しした。一方、8月の月次GDPは前月比+0.2%と再び増加した。

実質GDP

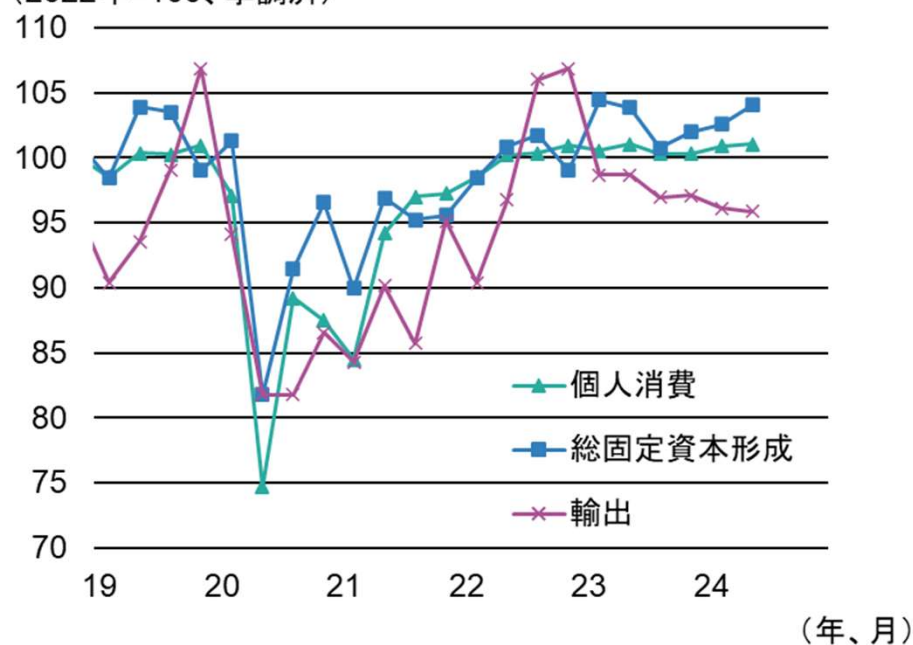
(2022年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2022年=100、季調済)

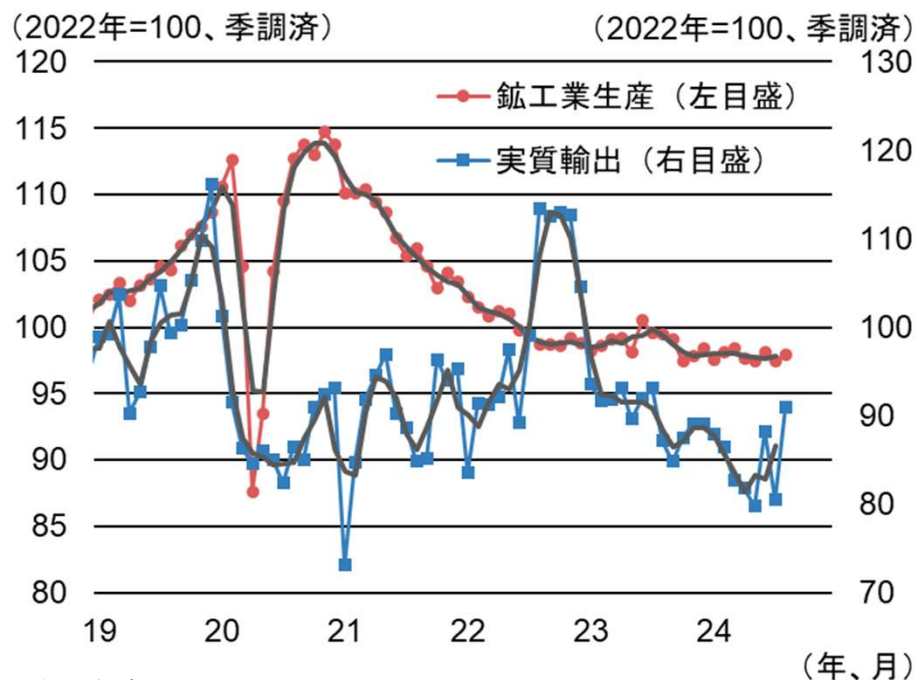


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は停滞している

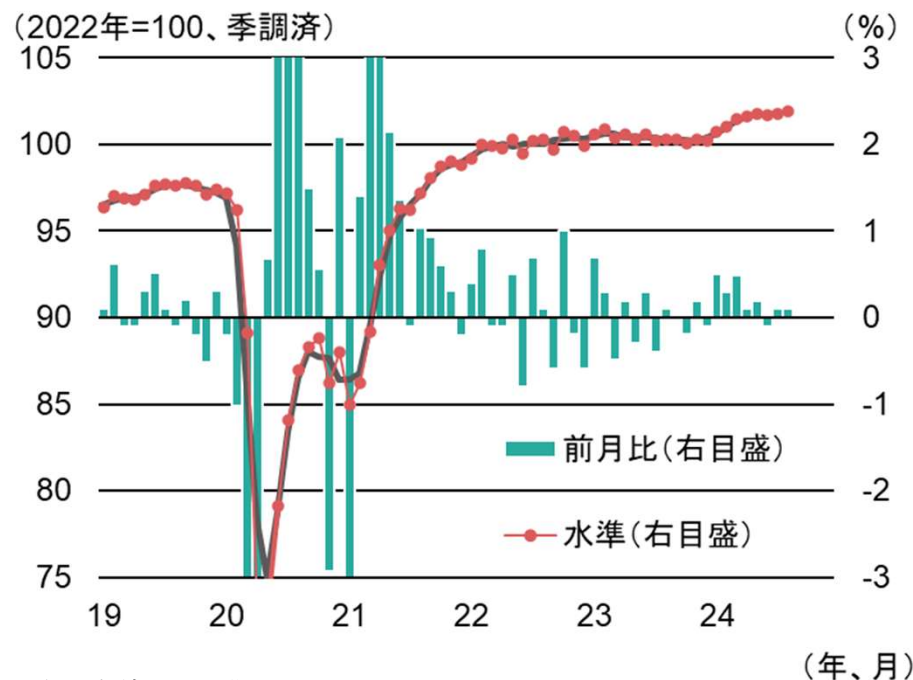
英国の8月の鉱工業生産は前月比+0.5%と再び増加したが、均した動きは横ばい。一方、同月の実質輸出は同+13.0%と前月から反発し、均した動きも持ち直してきた。他方で、8月のサービス業生産は前月比+0.1%と7月と同じ増加率となり、均した動きは横ばい。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

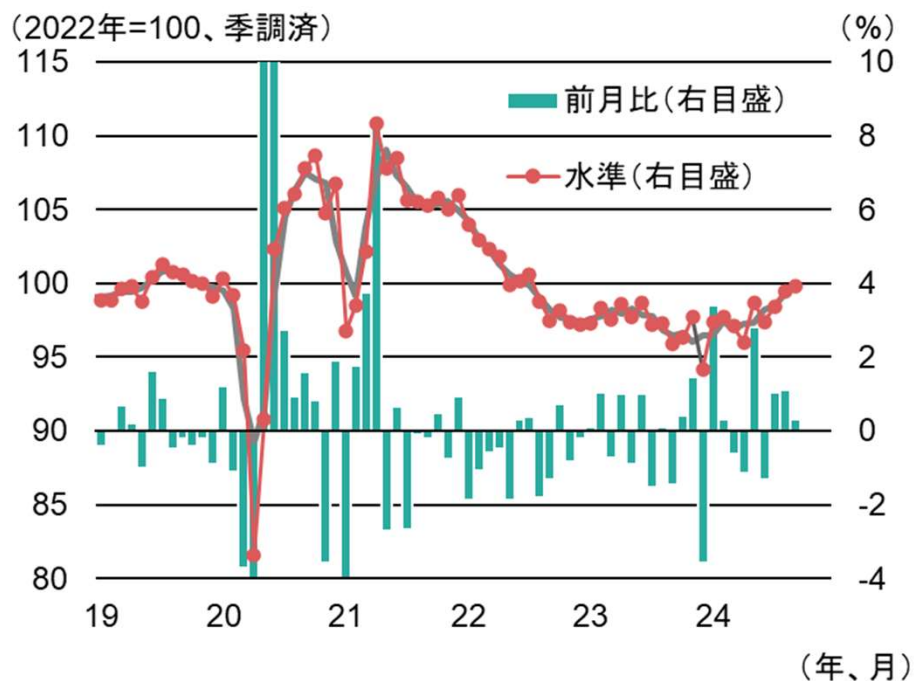


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は回復している

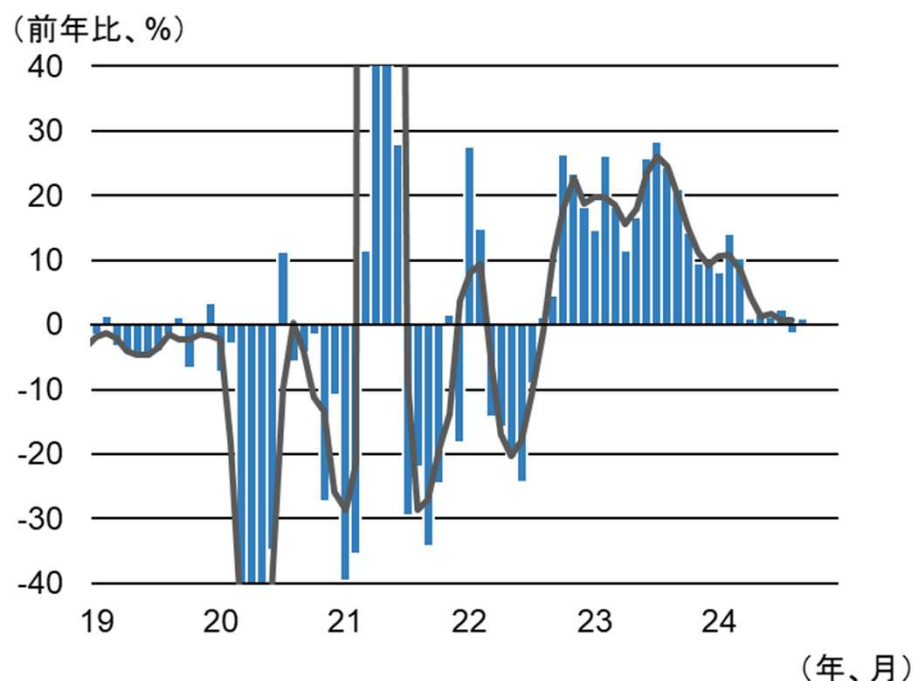
英国の9月の小売数量(除く石油)は前月比+0.3%と8月(同+1.1%)から増勢が鈍化したが、均した動きは上向き。一方で、9月の新車販売台数(乗用車)は前年比+1.0%と再び前年越えに転じたが、回復の動きが一服している。新車市場の規模は年率で190万台後半レベル。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

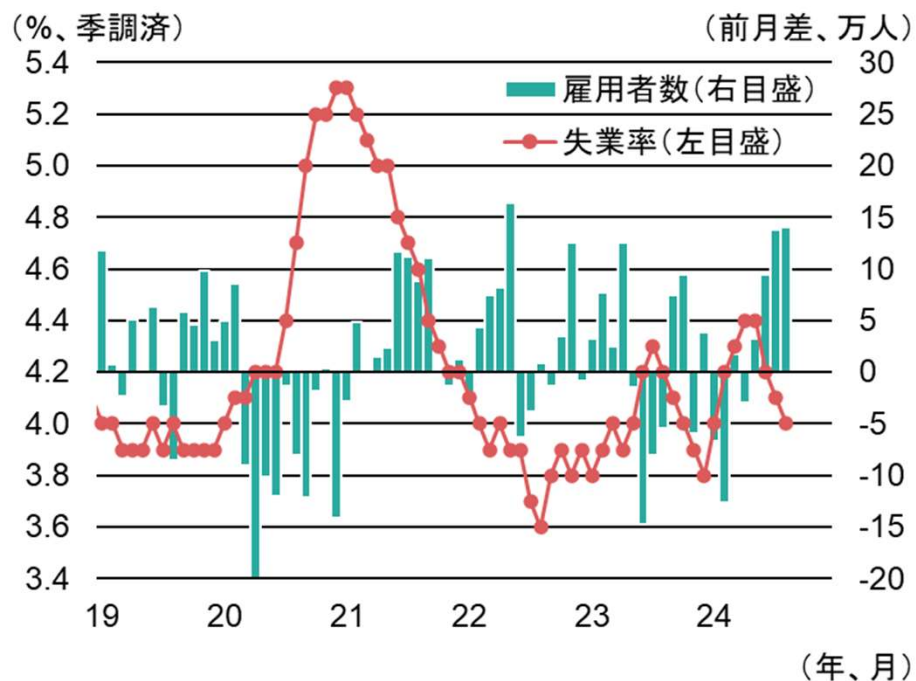
新車販売台数(乗用車)



英国景気概況④ 雇用は改善している

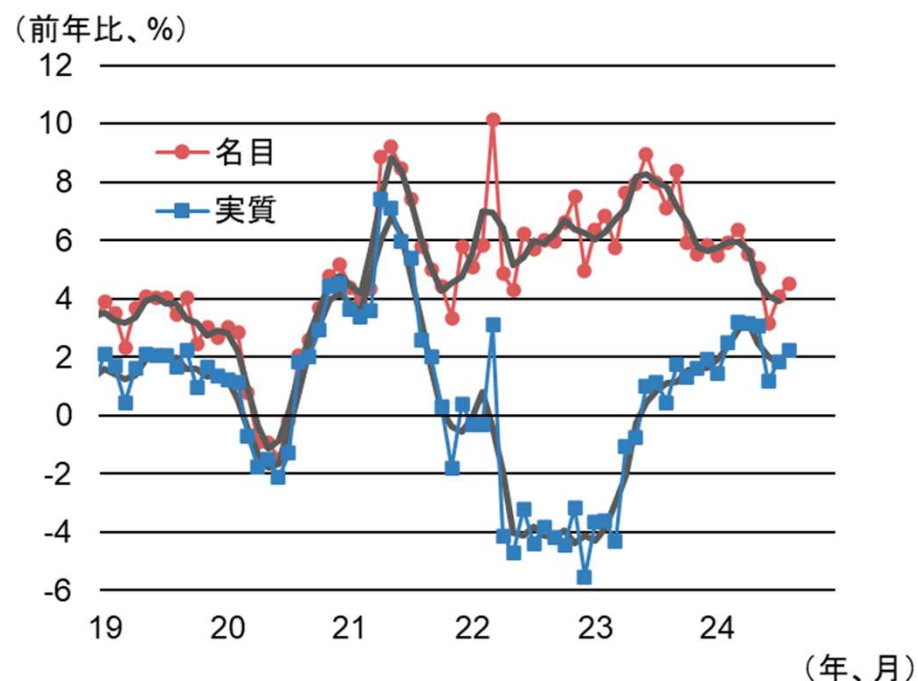
英国の8月の雇用統計は、失業率(6-8月期平均)が4.0%と3カ月連続で低下した一方で、雇用者数も前月差14.0万人増と7月(同13.8万人増)からプラス幅が拡大しており、雇用は改善している。他方で賃金の動きは、名目ベースだと前年比+4%台まで増勢が鈍化し、また消費者物価で実質化した実質ベースでも同+2%台まで増勢が鈍化した。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

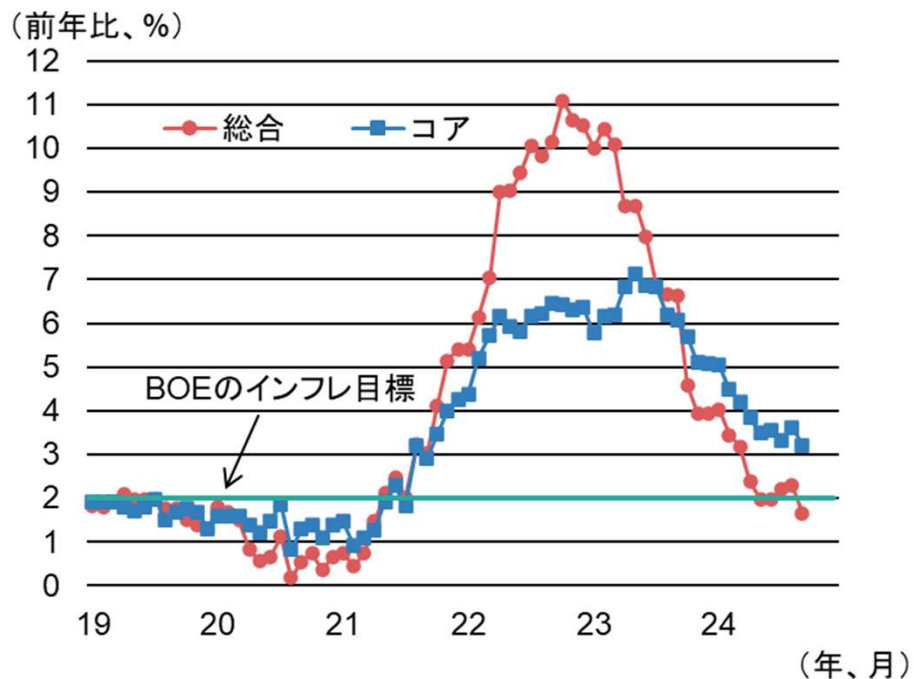


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは鈍化している

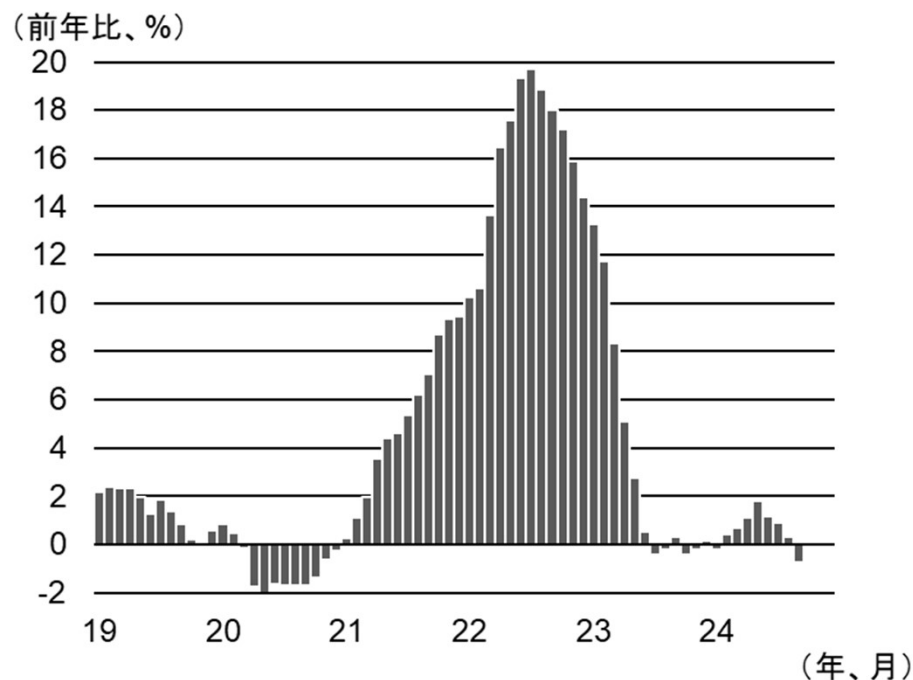
英国の9月の消費者物価は、総合ベースが前年比+1.7%と前月(同+2.3%)から下振れした一方で、変動が激しい項目を除いたコアベースも同+3.2%と上昇が減速し、インフレは再び鈍化した。他方で、消費者物価の先行指標となる生産者物価(産出ベース)は、同月時点で同▲0.7%と1月以来の前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価

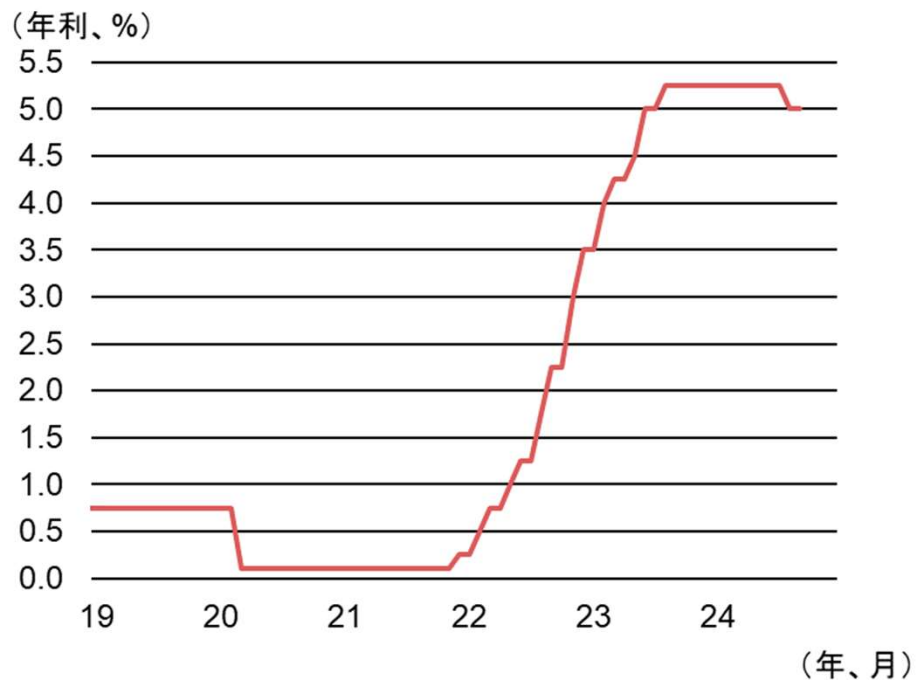


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは11月委員会で追加利下げへ

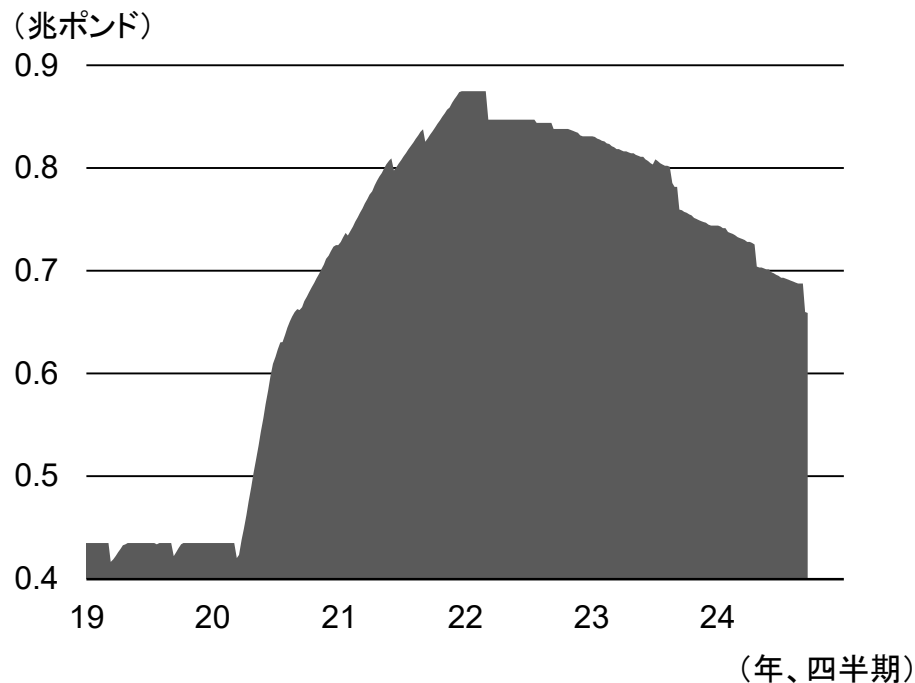
イングランド銀行(BOE)は9月19日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利(バンクレート)を年5%で据え置いた。BOEのベイリー総裁はインフレの鈍化が予想以上に速いと発言しており、年内に後2回(11月7日と12月19日)予定されているMPCの両方で0.25%以上の追加利下げが行われる見通し。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高



(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

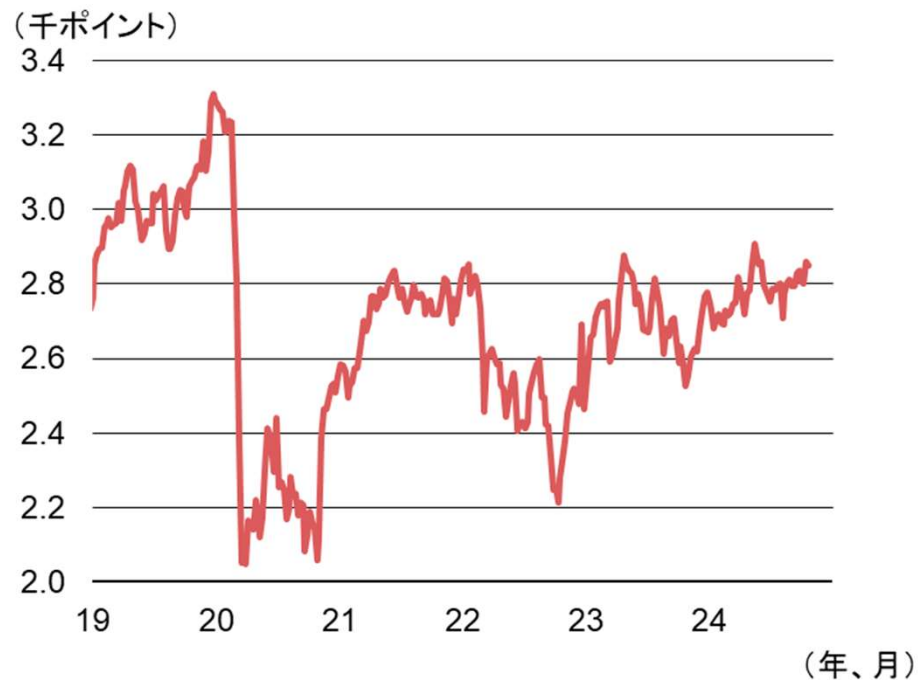
10月の英国の長期金利は上昇。米国の金利上昇に連動した。一方で、同月の株価は下落した。企業業績の低迷が相場の重荷となった。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所)BOE

株価(FT30指数)

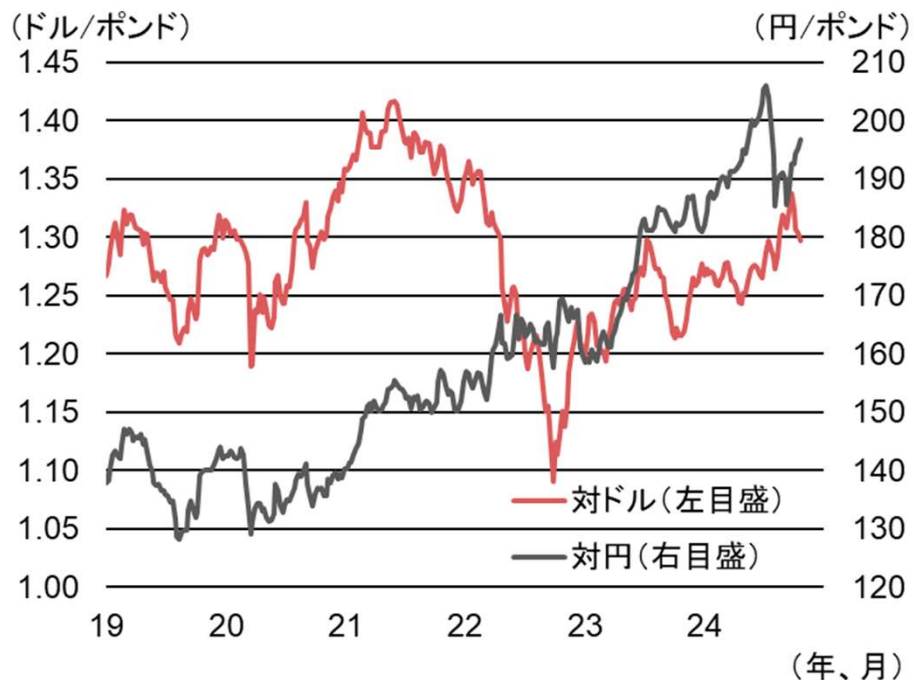


(出所)Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで下落、対円で上昇

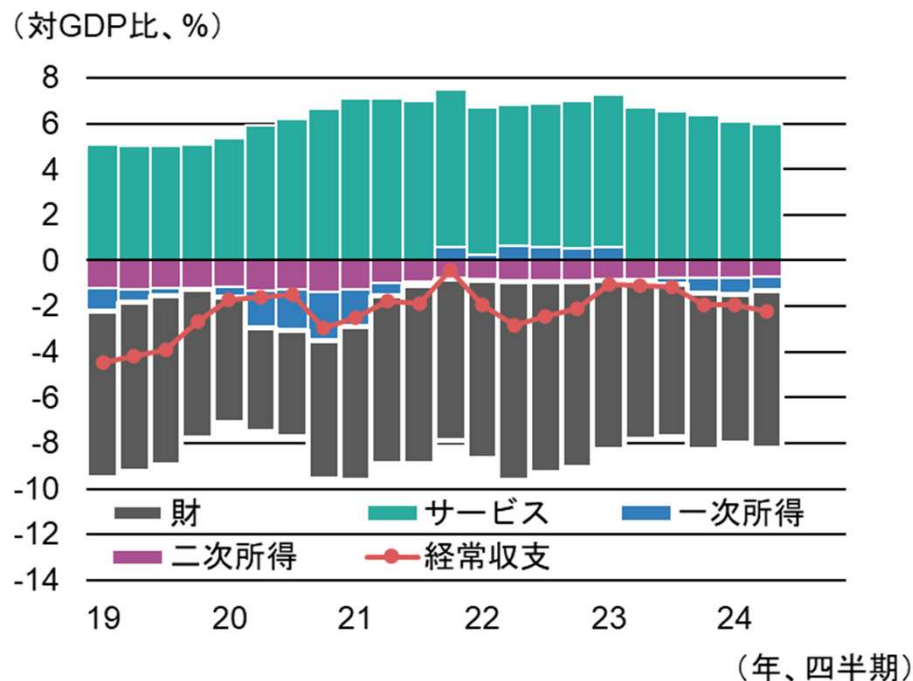
10月のポンド相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国の追加利上げが緩やかになるとの観測からポンド安ドル高が進んだ。一方で対円では、日銀による追加緩和観測の後退もあってポンド高円安になった。英国の経常収支は財収支(貿易)赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所)BOE

経常収支



(出所)BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー